



時代にあった、猫の飼い方について



近年、猫を家族の一員として迎え、飼養しているご家庭が多くなってきている一方で、猫に関するトラブルも増加しています。

ペットの終生飼養は飼い主の責任です。猫の特性、習性を知り、適正に飼養することで、猫と人がよりよく共生できる社会になるよう、「時代にあった、猫の飼い方」について、お知らせします。

◆猫は室内で飼いましょう（外に出さない）

「猫は外に出してあげないとかわいそう」と思う方も多いと思いますが、猫は狭い縄張りでもストレスなく生きていける動物です。登り降り等の運動できる場所と室内から外を眺めることのできる環境を用意してあげましょう。

外に出る猫は、交通事故や病気のリスクが高く、寿命が室内飼養の約半分程度と言われています。また、近所の方の敷地でふん尿や器物の破損など、トラブルの原因となります。

《完全室内飼養によるメリット》

- ① 交通事故に遭わない
- ② ふん尿や鳴き声で近所トラブルにならない
- ③ 感染症などの病気の予防になり、寿命が延びる
- ④ 行方不明にならない



トラブル防止に
努めてにゃ！

◆不妊手術をしましょう

「手術するのはかわいそう」などの意見もありますが、手術することにより、猫も飼い主もストレスなく生活できます。

大人のオス猫は、臭いの強い尿を多数にマーキングしますが、去勢手術をすることにより、ほぼなくなるため、飼養しやすくなります。メス猫は発情期になると甲高い声で鳴き続けます。この際に外に出してしまうと、ほぼ100%妊娠してしまいます。1回の妊娠で4～8匹生まれ、新しい飼い主を探すのは困難です。処分の対象となってしまうこともあるため、罪のない命を奪ってしまうこととなります。

《不妊手術のメリット》

- ① 不必要な繁殖を制限できる
- ② オスはマーキング行動をしなくなる
- ③ メスは発情期に大きな声で鳴かなくなる
- ④ 性的欲求に対する不満やストレスが減り、性格が穏やかになる
- ⑤ 生殖器系の病気の予防ができる
- ⑥ 「パートナーより飼い主が大好き」で生涯を過ごすことができる